

《小学生の部》

優秀作(国務大臣・国家公安委員会委員長賞)

栃木県那須塩原市立埼玉小学校

6年 前野 ちえり

登校班の問題児

私は、今年度登校班の班長になりました。初めての大きな役割をまかされ、私はやる気のみちていました。しかし一つ問題がありました。私の班には一人問題児がいるのです。

その問題児こそ私の妹です。妹は、予定より三ヶ月早く生まれました。身体が小さく手足がかたいためよく転びけがをしています。そして、やんちゃで気が強い性格です。問題児の行動は、注意すると行動がエスカレートしわざと列からはみ出る、突然立ち止まって全く歩こうとしない、同じ学年の友達とかさで戦いをするなどです。妹が原因で、学校に遅刻してしまう事もありました。徐々に妹への怒りがつのっていきました。

そこで母に相談してみる事にしました。妹に注意してくれると思っていた所、母からの意外な言葉に驚きました。相手を変えるためには、まず自分が変わってみるように言われたのです。なぜ相手が悪いのに自分が変わら必要があるのか理解できませんでした。

そんなある日、横断歩道を走って渡っていた妹が、転びました。私は、すぐに妹をおんぶして安全な場所に移動させました。すると妹は、「ごめんなさい。」と泣きながら言いました。車がとまってまつててくれたおかげで、妹は大けがをする事もありませんでした。

その時、以前兄から自分が注意を受けて嫌な気持ちになった事を思い出しました。私は今まで、悪いと思った事を注意してきました。安全運転をしましょう、ながらスマホをやめましょう、などと色々注意を呼びかけていても事故は起こっています。それは、注意を受けた事をよく思っていない人達が多いからではないかと考えました。

しかしながら、注意をする事は、時には必要な事だとも思います。妹に毎日注意をする事は、とても体力がいる事でした。今思うと本当は、妹を守りたいという強い気持ちがあったからできた事です。相手が自分の思いに気付かないうちは、反感をかう事もありますが、注意がきっかけで、相手が考え、気付いたりする事もあると思うからです。

そこで自分がどのように行動すれば、妹がかわってくれるかも一度よく考えてみました。まず、注意を守ってもらったらお礼を言ってみる、けがをしてほしくない気持ちを伝えてみる、注意ではなくお願ひしてみたらどうか、などがうかびました。

早速行動してみると、今まで全く言う事を聞かなかった妹が、一人でもできると言い、横断歩道の前で立ち止まり左右の確認をしていました。相手を変える事は、簡単に上手く

いくわけではありませんが、自分が変わる事で相手にも少し変化ができる事が分かりました。

今の私にできる事は、き細な事ですが、危険な行動はしないように相手に愛情をもって伝える事から始めていこうと思います。一人でも多くの人が自分から交通ルールを守る事が、自分だけでなく、大切な人の命を守る事につながると私は信じています。